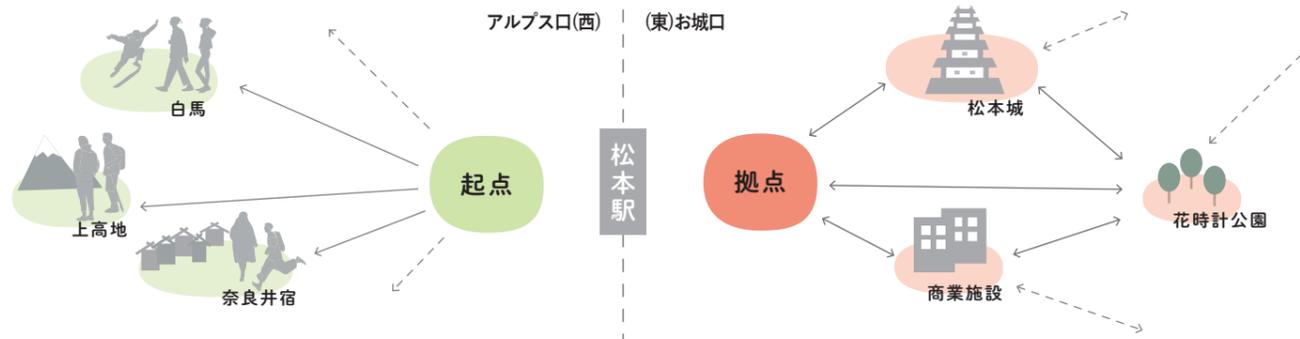


### ①外との繋がり



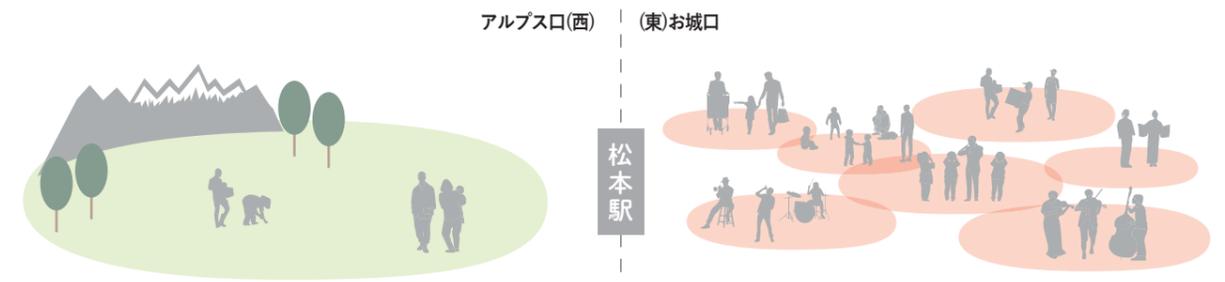
#### 広域への目的地に向かう「起点」

松本駅西側は広大な松本盆地が広がっているため、高速道路や幹線道路、鉄道路線、飛行場が位置している。そのため、安曇野や諏訪北アルプスなど、隣町や主要観光地へのアクセスが有利である。  
また、複数の街道が松本宿を起点に西側を經由して伸びていたことがわかる。

#### まちなかを回遊する一つの「拠点」

松本の中心街は山に囲まれた扇状地であり、山の麓まで人々の営みが広がっている。歴史資源、公共施設、商業施設など、様々な拠点があり、まちなかの回遊が生まれている。その回遊拠点の一つとして松本駅東側は機能すると考えられ、まちとの繋がりや、周囲との関係性が重要となる。

### ②空間体験



#### 北アルプスや田園風景など

#### 大きなものに抱かれる「おおらかさ」

駅前には住宅地が広がり、自然地形に合わせた田園地帯の大きな地割りが残る。駅から西に向かう程この傾向は強くなり、おおらかに区画された農地の風景が広がる。また、松本盆地を挟んで北アルプスの山々が連なり大自然が広がる。

#### 路地や個人商店など

#### 小さなものが織りなす「細やかさ」

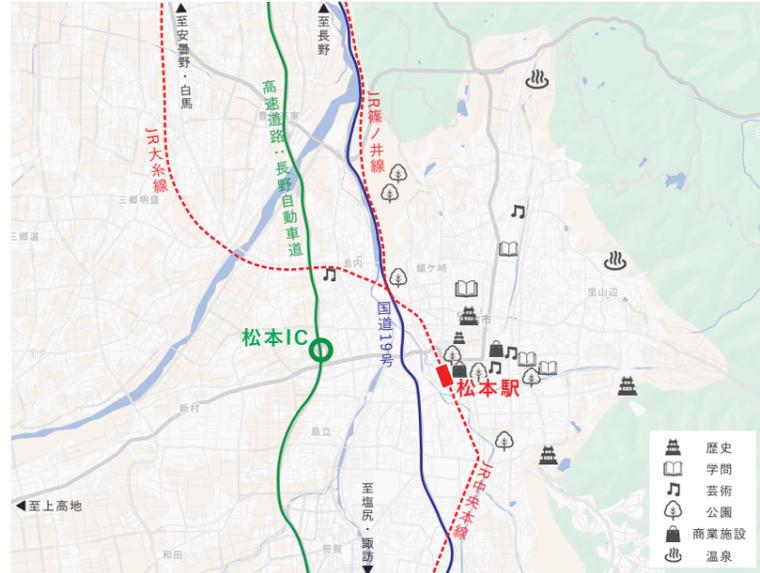
城下町の歴史を色濃く残し、細分化された町割が残る。まち歩きの際となる複数の通りや、当時のままの幅の狭い幅員の小路が多く見られる。また、町割を活かした小さな商店などが集まり、細やかさを持つヒューマンスケールな街並みを形成している。

■街道と主要観光地、飛行場



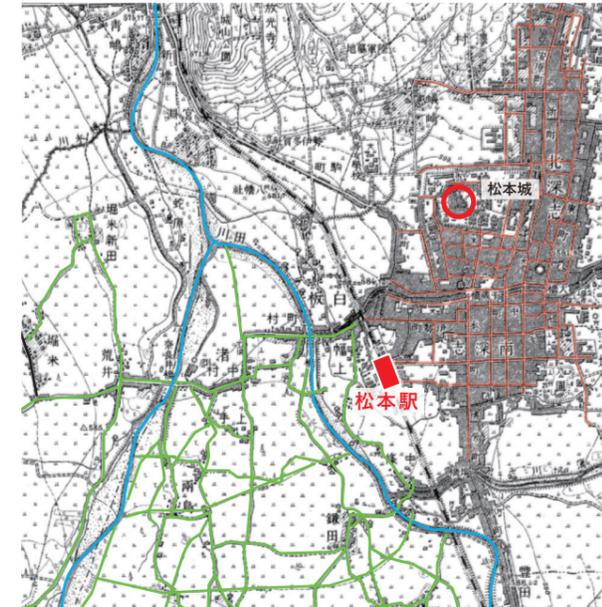
↑日本海方面への2つの街道の起点である。西側には有名観光地が点在する。

■道路・鉄道・資源の分布



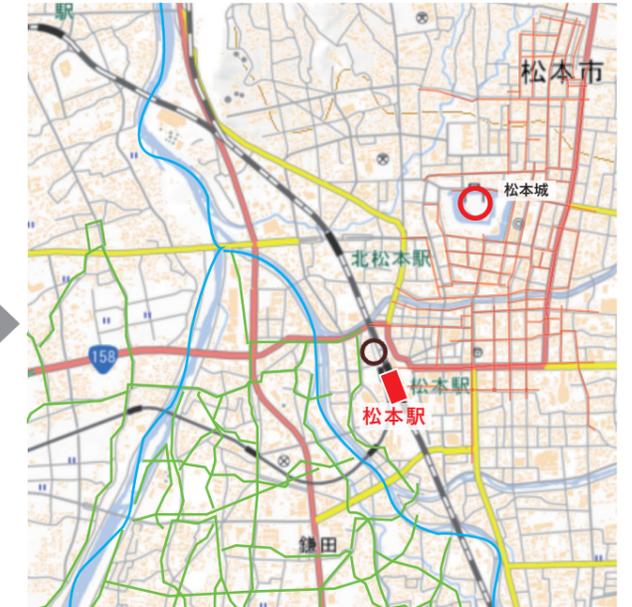
↑東には高速道路のIC、幹線道路の国道19号が位置する。鉄道は松本駅を境に2手に分かれ、長野市方面と白馬方面に向かう。

■1910年代



↑西側は地なりに沿ったおおらかな街区が現在も残り、東側は城下町の細かい区画が残っていることがわかる。

■2010年代



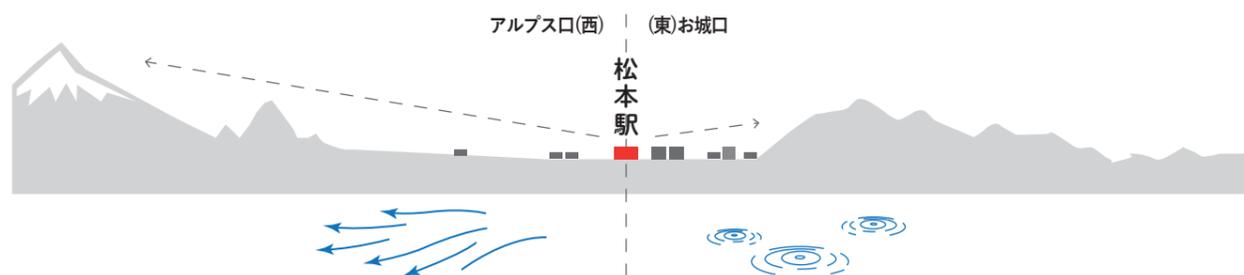
#### ■キーワード

- ・ 始まりを感じる場所
- ・ 長時間の滞在
- ・ 交わりの場所
- ・ 短時間の滞留
- ・ 広域観光拠点への案内
- ・ 大人数
- ・ まちなか資源の案内
- ・ まちとの繋がり

#### ■キーワード

- ・ 遠景の眺め
- ・ 大自然
- ・ 近景の眺め
- ・ 複数のアクティビティ
- ・ 大きいスケールの中に人がいる
- ・ ヒューマンスケールな場所が重なり合う

### ③自然と人との関係性



**山** 人々が信仰してきた山岳風景

**水** 生活を支えてきた水流

**山**：駅前から20-30km先に、暮らしを見守ってきた3000m級の北アルプスの山々が連なる。駅前は大自然の視点場となる。  
**水**：かつての舟運や山麓の水田など生活を支えてきた河川の歴史があり、今なお山麓には豊かな田園風景が広がる。

**山** 人の営みが育んできた連峰風景

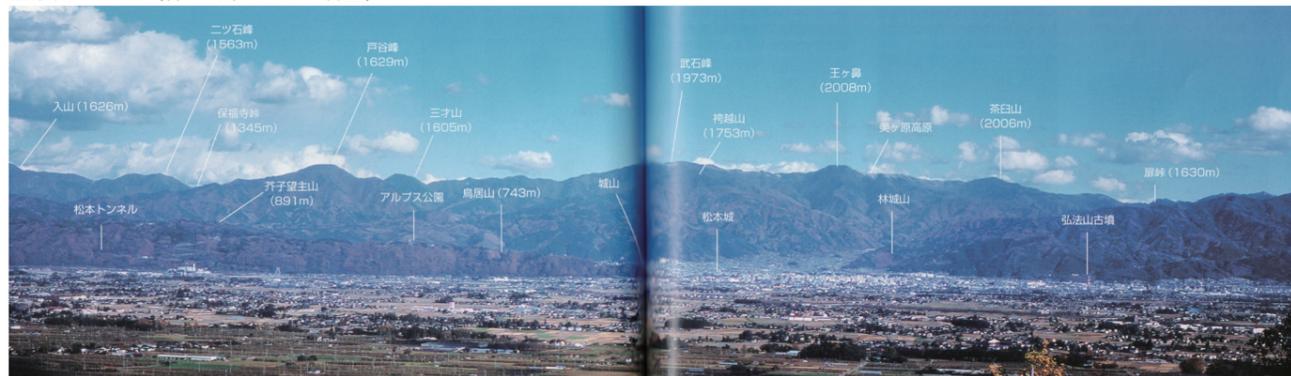
**水** 文化を育んできた湧水

**山**：東10kmには人々の営みと近い2000m級の山々が広がる。高原の放牧や山麓の温泉街など自然の恵みを活かした風景が見られる。  
**水**：酒造りや染め物など松本の文化を育んできた湧水が各地に残り、観光・交流・飲料水として活用されている。

■西側の山々（北アルプス）（里山からの眺望）



■東側の山々（梓川地区からの眺望）

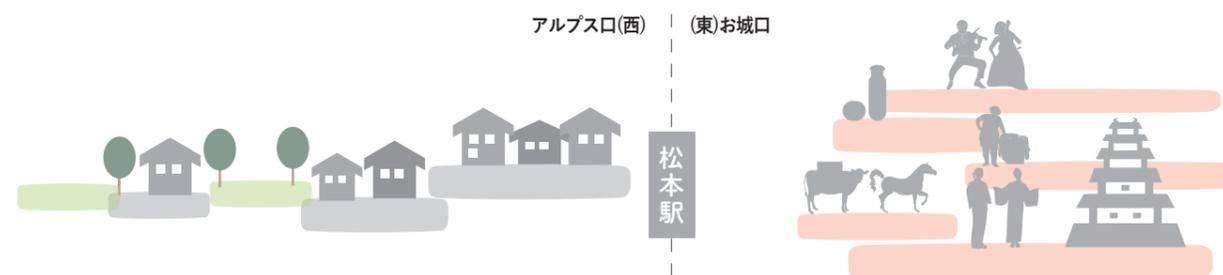


↑東と西の山脈は全く異なる顔をしている。同じ山脈でもゴツゴツした山岳と高原を含む連峰となっている。

■キーワード

- ・180°の眺望
- ・流れる
- ・大きなスケール
- ・まちの間から見える山々
- ・湧きたつ
- ・臨む
- ・生活
- ・利活用
- ・育む
- ・文化

### ④まちの変遷



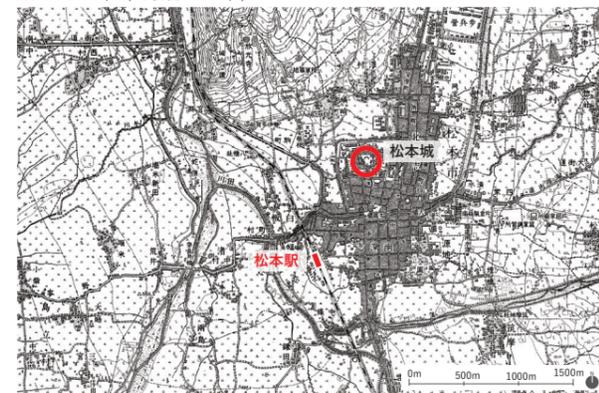
居住を中心として拡大し、  
発展してきたまち

広大な松本盆地に広がる農耕地帯には古くから農村が転々と広がっていた。経済成長とともに、駅を中心に市街化が徐々に拡大してきたことがわかる。主に居住地として発展してきたため、住民の日常的な利用が多くみられるまちとなっている。

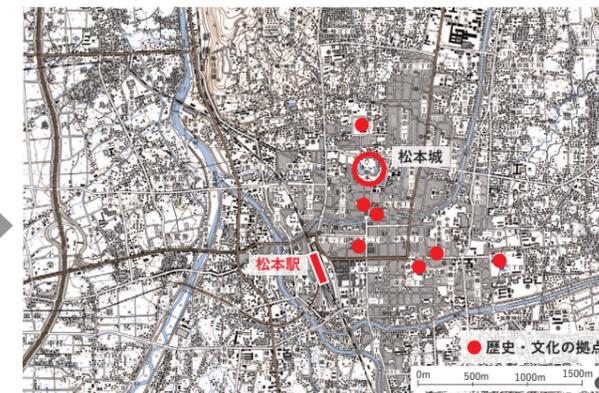
歴史や文化の重なりを活かし、  
発展してきたまち

城下町、宿場町、学問の発展、土地区画整理、音楽文化など、各時代の歴史・文化を積み重ねて発展してきた。その積み重ねがまちを歩いて回遊する楽しさ、魅力を生み出している。そのため、観光客や地域住民など幅広い人々が行き来するまちとなっている。

■1910年（明治43年）



■2001年（平成13年）



↑東側は古くから市街地が広がっており、西側は近年、市街化されてきた。東側には歴史・文化の拠点が多く位置する。



↑幹線道路を除くと西側は、住宅用地と畑が広がり、一方東側は駅前から商業用地が広がり、公共施設用地が多く点在する。

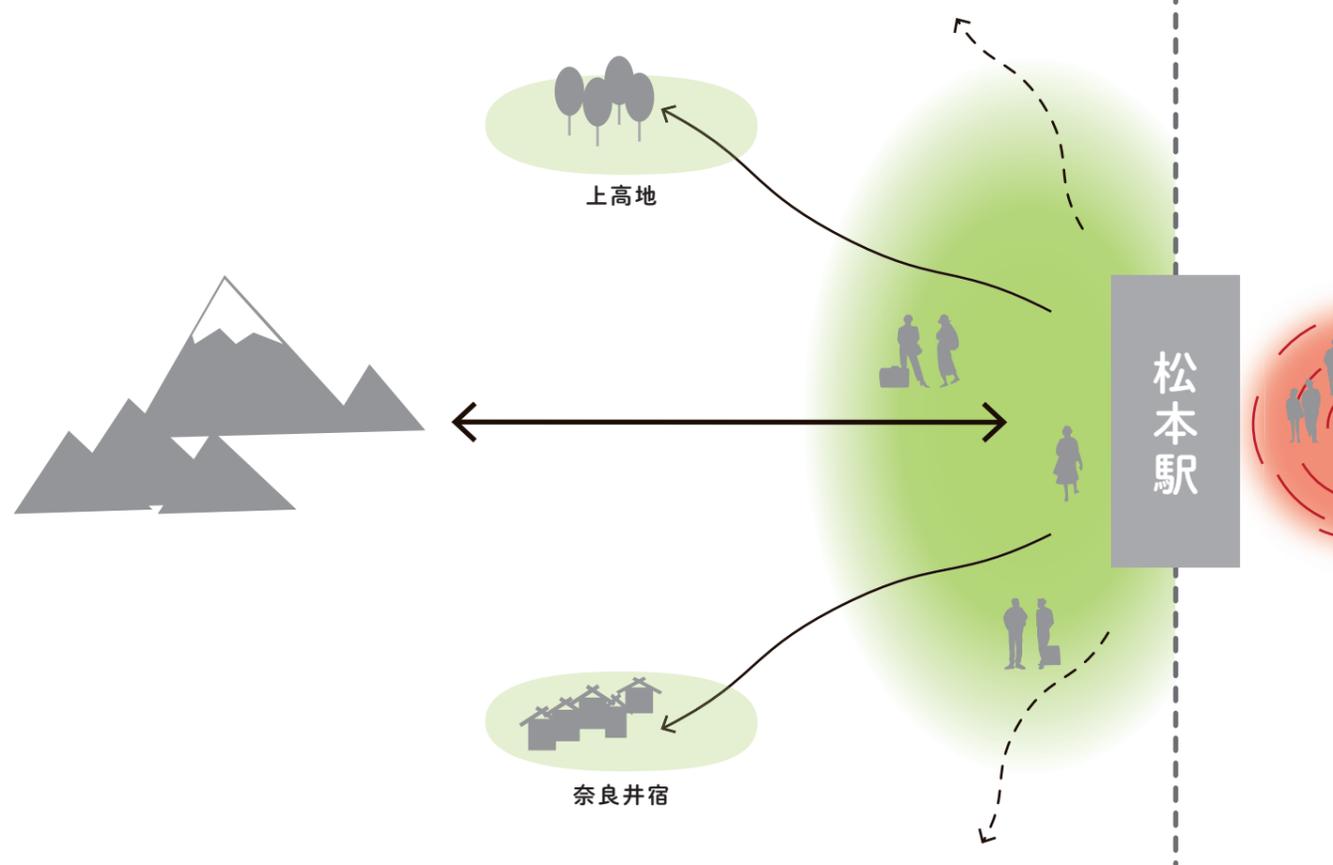
■キーワード

- ・暮らしの利便性
- ・ひろがる
- ・まちの豊かさ
- ・かさなり
- ・拡張性
- ・生活、日常、農
- ・重層性
- ・歴史、文化、学問、芸術

東西の方向性

山とつながり路を紡ぐ「はじまりの場」

西口は山々や田園風景等の大きなスケールを背景に、遠方に出かける来街者の一時利用や居住者が日常的に利用する頻度が高い特徴を持つ。観光客の「旅路」、地域住民の「家路」というそれぞれの「路」を紡いでいくはじまりの場を駅前につくる。



広域への目的地に向かう「起点」

北アルプスや田園風景など大きなものに抱かれる「おおらかさ」

人々が信仰してきた山岳風景/生活を支えてきた水流

居住を中心として拡大し、発展してきたまち

①外との繋がり

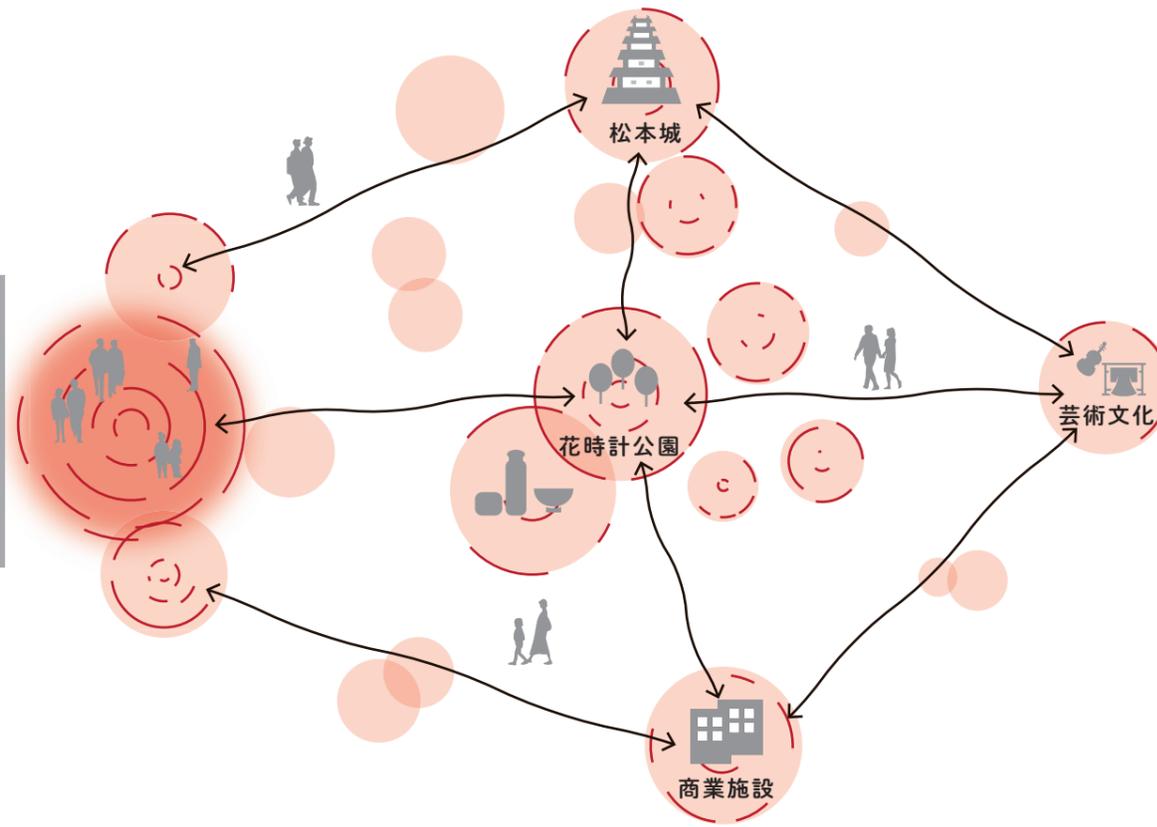
②空間体験

③自然と人との関係性

④まちの変遷

街とつながり人の営みが織りなす「まじわりの場」

東口は町割由来の細やかな、まちなみが特徴で人の営みによる豊かな拠点が多く見られる。松本駅東口も拠点の一つとしてヒューマンスケールにあわせてつくり、既存の魅力と円滑に接続させ、まちの回遊性を高める交わりの場としていく。



まちなかを回遊する一つの「拠点」

路地や個人商店など小さなものが織りなす「細やかさ」

人の営みが育んできた連峰風景/文化を育んできた湧水

歴史や文化の重なりを活かし、発展してきたまち